

Special Operation Hercs

352SOGのMC-130P/H



over the UK



2002年2月、アフガニスタン某所上空。陸軍特殊作戦ヘリ、MH-47Eへの空中給油任務中に、そのトラブルは起きた。MC-130Pコンバットシャドーは、標高3,000m級の山々が連なる山岳地帯、雪で覆われた山肌からは500ftも高度差のない低空を這うように飛んでいるが、空は月も出ていない闇夜だった。機体は完全に機外灯を消し、8名のクルーは全員NVG（暗視ゴーグル）を着用、速度はヘリにあわせて失速ギリギリの状態。おまけにMH-47はタービュランスにあおられ、給油作業は順調ではなく、時間ばかりが刻々と過ぎていく。コンバットシャドーは搭載燃料も多く鈍重だったが、谷間を進む機体の前には、予想以上の標高の尾根が現われた。そこには機体が通過できるだけの余裕はなく、ロードマスターは空中給油用のドロッグホースが山の斜面にぶつかるのを見て、墜落を覚悟した。MC-130P、“Ditka 03”は雪に覆われた山肌に激突、まっぶたつに折れたが、満載だった燃料には引火せず、幸いにして8名のクルーは全員が無事だった。

AFSOC（空軍特殊作戦軍団）所属の352SOGは、1995年からイギリスのRAFミルデンホールをホームベースとしてMC-130を運用し続けている。冒頭で紹介した機体は352SOGの所属機ではなかったが、同航空群はヨーロッパやアフリカ、中央アジアを中心として世界のどこへでも展開できるよう、準備を重ねており、こうした危険なミッションもこなせるよう、日々訓練を重ねている。近年は無人機やティルトローター機CV-22BオスプレイなどもAFSOCの主要な装備だが、MC-130はヘリやCV-22への給油任務、特殊作戦兵の空輸や空挺降下といった重要な任務をこなすためにも、AFSOCに欠かすことのできない機材のひとつだ。352SOGにはMC-130HコンバットタロンⅡを装備する7 SOS、MC-130Pコンバットシャドーを装備する67SOSに加え、321STS（特殊戦術中隊）と352MG（整備中隊）で構成されており、SOCE（ヨーロッパ特殊作戦軍団）の一員として、陸軍、海軍、海兵隊の特殊作戦チームとも共同作戦を実施している。



↔ イギリスの山岳地帯上空で低空飛行訓練を実施する67SOSのMC-130Pコンバットシャドー。主翼にはCV-22のほか空軍や陸軍の特殊作戦ヘリに空中給油を実施するためのプローブ&ドローグ方式のサージャント・フレッチャー48-000ホース・ドローグ空中給油システムを装備しているが、システムが古いため、ミッションによってヘリ向け、もしくはティルトローター機向けの個別設定をしなければならず、1ミッションで双方に対応することはできない。もともとは救難機HC-130Pとして配備され、機首レドーム部分にはヨークと呼ばれるフルトン気球回収システムのアームが装備されていたが、現在は撤去されており、また空軍の部隊改編により1990年代中ごろに同機がAFSOC隷下に入ったことから、機種名も現在のMC-130Pとなった。67SOSには5機が配備されているが、そのどれもが1964～66会計年度に発注された機体で、初飛行から40年以上が経過している。





↑ 大型機では通常編隊飛行訓練には多くの時間を割かないが、MC-130はあらゆる状況を想定した訓練が必要で、編隊での機動飛行訓練も多い。また、67SOSのパイロット、ジェレミー・アンダーソン大尉は「通常輸送機パイロットの任務は90%が昼間飛行で夜間飛行は10%程度だが、われわれはその逆だ」と話す。そうした任務特性を踏まえて、機首下面にはFLIR(赤外線前方監視装置)を装備する。



↑ MC-130Pのコックピット。アナログ計器が並ぶクラシックなレイアウトのコンソールで、唯一中央に装備されているディスプレイには、レーダー画像とFLIRの画像が投影可能。
 【右3枚】 機体が古く新しい支援装備のないMC-130Pではおのずと最低8名のクルーが運用には不可欠となる。パイロット、コパイロットの2名に加え、その少し後方にはフライトエンジニアが位置し、コパイロットの後方にはナビゲーター(上段)が2名、機体右側を向いて座っている。その後方、カーゴコンポーネントの一角には無線オペレーター(中段)が配置され、さらに搭載物を管理するロードマスター(下段)が2名乗り組む、といった陣容だ。なお、352SOGには2007年までMH-53Jを運用する21SOSも所属していたが、同機の退役により飛行隊は解散、今後2013年か14年ごろにはMC-130Pも新型のMC-130Jコンパクトシャドー-IIに機種変更されるのではないかと期待されているが、昨今の軍事費削減はそうした計画も不透明にさせている。





↓ 352SOSのもうひとつのハーキュリーズ部隊、7SOSはより新型のMC-130HコンバットタロンII 4機を運用。同機に与えられたミッションも基本的にはMC-130Pと同様で、空中給油、特殊作戦兵の投入・回収、心理戦（チラシの散布など）、物料投下を含めた物資の輸送などだが、7SOSでは空中給油と編隊飛行訓練は実施しておらず、給油ポッドも未装備。写真は兵員投入時などを想定した大量のフレアー投射。



← 同じRAFミルデンホールをホームベースとするUSAFE (在欧米空軍)の空中給油部隊、100ARW/351ARSのKC-135Rから空中給油を受けるMC-130H。



【3枚】 夜間飛行・低空飛行が多い特殊作戦機として、MC-130Hでは各種システムが充実した。ピノキオノーズと搭載されるレドームにはAN/APQ-170地形追従/地形回避/地上マッピングレーダーを搭載、コックピットにも正副パイロットそれぞれの正面に2つのMFD(多機能ディスプレイ)が装備され、当然NVGも運用可能。無線オペレーターは搭乗せず、ナビゲーターのひとりにはEWO(電子戦士官)として特殊戦任務に特化できる状況になっているほか、ALR-69 RWR(レーダー警戒装置)やALQ-172・ALQ-8 ECM(電子戦システム)、ALE-44 チャフ/フレア・ディスペンサーなどを装備、胴体後方側面にはAAQ-24 DIRCAM(指向性赤外線対抗策)も装備している。

